

報告書抄録

ふりがな	いわせだに こふんぐん							
書名	岩瀬谷古墳群							
シリーズ名	大砂川補助通常砂防工事に伴う発掘調査報告書							
編著者名	辻川 哲朗							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	大津市京町四丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	平成24年（2012年）3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いわせだに こふんぐん 岩瀬谷古墳群	しがけん こなんし 滋賀県湖南市 しょうふくじ 正福寺 いわせだに 岩瀬谷	362	19	35° 24′ 34″	136° 11′ 21″	20110602 ↵ 20111130	1,000㎡	大砂川補助 通常砂防工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
岩瀬谷古墳群	—	縄文時代中期末		—	縄文土器・石器			
	—	古墳時代前期		—	土師器			
	古墳群	古墳時代後期		横穴式石室墳	須恵器・土師器・玉類・ 鉄器類（鉄刀・刀子・ 鉄鎌・銀象嵌鐔等）等		横穴式石室墳5基	
	集落・生産	中世		平坦面・鍛冶炉・ 矢穴石	白磁・黒色土器・瓦器・ 土師器・鞆羽口・鉄滓・ 銅銭等		横穴式石室の転用 採石場跡	
	治山・砂防	近代		治山・砂防関連 遺構・採石跡	—			
要約	<p>岩瀬谷古墳群は、野洲川中流域右岸の丘陵部－野洲川の支流である大砂川流域に展開した遺跡である。今回の発掘調査の結果、調査地ならびにその周辺における土地利用の変遷を以下のとおりあきらかにすることができた。</p> <p>①縄文時代 確実な遺構は未検出であるものの、土器（中期末頃）・石器類が出土した。湖南市域一なかでも野洲川右岸地域においてはじめて検出した縄文遺跡例である。</p> <p>②古墳時代前期 確実な遺構は検出できなかったが、包含層中から古式土師器が出土した。</p> <p>③古墳時代後期初頭 確実な遺構は検出できなかったが、包含層中から該期の須恵器類が出土した。</p> <p>④古墳時代後期中葉～末葉 流域一帯で岩瀬谷古墳群が展開する。横穴式石室5基を検出できた。石室は畿内系横穴式石室で、築造時期は6世紀後葉～末葉頃を中心とする。石室内は中世期に攪乱を受け、遺物の遺存状態は良好ではないが、須恵器・土師器・玉類・鉄器類が出土した。D1号墳から出土した銀象嵌鐔は県内でも出土例が10例に満たないものである。また、D1号墳では、墳丘内石列が確認され、墳丘構築技術の一端をうかがえる資料となった。</p> <p>⑤中世 丘陵斜面に作りだした平坦面や、平坦面上の土坑・ピットを検出した。平坦面の堆積土中から12～13世紀頃の土器類が出土した。また、大砂川河床付近では矢穴石を検出した。矢穴の特徴からみて、13～16世紀に位置づけられるものであり、石造品の製作を目的とした採石場であった可能性が高い。</p> <p>⑥近代 近世には調査地周辺一帯が禿山になっていたようであり、近現代期の治山・砂防遺構が流域各所でみられた。調査地付近でも、近代の治山事業に伴う石積や採石跡を確認することができた。</p>							